

科目名	地域・在宅看護援助論Ⅲ				
担当講師名	佐藤 洋子	所属・役職	主任看護教員	資格・免許	看護師
担当講師名	山崎美沙都	所属・役職	主任看護教員	資格・免許	保健師
担当講師名	松本 紀子	所属・役職		資格・免許	栄養士
授業形態	講義・演習	単位数・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 学年後期
講義の概要	<p>進展する高齢化の中、地域包括ケアシステムを基盤に、病院から暮らしの場へ、生活を重視した地域完結型の医療へと、在宅ケアが推進されている。</p> <p>今後の在宅看護実践では、「個のケア」である療養者や家族への直接のケア、また、在宅ケアチームの一員としての役割を担うことはもちろん、「地域包括ケアシステム」全体を見渡し、ケアチームを構成する、必要な地域の資源を創出するなど、在宅看護ならではの役割や機能が期待されている。そして、その実現のためには、確かな看護技術を基盤とした多職種と協同する力、社会資源を活用する力、地域での支え合いを作り出す力など、多岐にわたる実践力が求められている。</p> <p>この科目では、地域での看護実践に必要な知識を理解し、地域で暮らす療養者と家族の生活を支える看護について学習することをねらいとする。</p>				
到達目標	<p>1. 療養者や家族との信頼関係構築や、自己決定を促すためのコミュニケーションを習得する。</p> <p>2. 在宅看護に必要な日常生活援助・生活の質向上のための援助技術を理解する。</p>				
講義回数	講義内容			形式	担当教員
1～3	I. 訪問看護技術	<p>1. 家庭訪問・初回訪問</p> <p>1) 家庭訪問の意義</p> <p>2) 訪問看護導入時の療養者と家族</p> <p>3) 初回訪問の目的と配慮</p> <p>4) 訪問の手順と倫理・心構え</p>		講義 演習	教員
4	II. コミュニケーション	<p>1. コミュニケーション</p> <p>1) 在宅療養を支えるコミュニケーションの基本</p> <p>2) コミュニケーション障害と支援</p> <p>3) コミュニケーション障害のある療養者の特徴と支援のポイント</p>		講義	教員
5・6	III. 日常生活を支える看護技術	<p>1. 食生活</p> <p>1) 在宅療養の場における食生活の特徴</p> <p>2) 食に関するアセスメント</p> <p>3) 援助の技術と応用</p> <p>4) トラブル時の対応</p> <p>5) 社会資源の活用</p>		講義	外部講師
7～9		<p>1. 清潔と更衣</p> <p>1) 在宅療養の場における清潔と更衣の特徴</p> <p>2) 清潔ケアと更衣のアセスメント</p> <p>3) 清潔ケアの技術と実際</p> <p>4) 社会資源と多職種連携</p>		演習	教員

回	単元	内容	形式	担当教員
10・11	IV. 在宅療養を支える基本的な技術	1. 環境整備 1) 在宅療養環境の基本 2) 療養環境が引き起こす障害の予防 3) 居住環境のアセスメント (排泄のアセスメントと援助含む) 4) 住環境整備 5) 福祉用具 6) 環境整備に活用できる社会資源 2. 感染予防 1) 在宅における感染防止の基本 2) 援助の実際 3) 感染予防指導 4) 感染症発生時の対応	講義	教員
12～15	V. 在宅療養を支える災害対策	1. 在宅療養における災害対策 1) 災害とはなにか 2) 地震、津波、浸水被害を知る 3) 災害関連死について知る 4) 在宅療養における災害対策の必要性 (災害サイクルと関連) 2. 避難所避難と自宅避難 1) 災害医療の原則と地域保健福祉の対応の原則 の理解 2) 災害弱者と福祉避難所について知る 3. 災害のための日頃の備え 1) (例) 新型コロナウイルス感染症感染拡大とその 対策	講義 演習	教員
教科書等	「地域・在宅看護の実践」医学書院			
成績評価方法	出席、授業参加状況、課題により総合的に評価する。			
履修上の留意点	既習学習の知識をふまえ、授業に臨む。			
特記事項				